

デジタルメディアテクノロジーが進む一方で、これまでの伝統的メディアのみで生活者を、特に若年層を惹きつけるのは難しくなっている。また、テクノロジーによって、メッセージの送り手と受け手である生活者との距離感が狭まっているのも事実である。英国では、政党がこぞって、ニューメディアを活用して生活者との対話をする努力を始めている。

デジタルメディア、ソーシャルメディア、CGMは、そのメディアとしての強みが認識されつつも、メッセージのコントロールがしにくいなどの理由からその危険性も議論されてきた。しかしながら、メディアとしてのパワーは拡大する一方で、政党までもが、生活者とコミュニケーションする新しい手法としてニューメディアを取り上げている。

米国では既に多くの政治家がセカンドライフ(<http://secondlife.com/> 日本でももうすぐ公開予定)上でアバターを形成し、政治活動をしている。

英国では2006年秋に保守党党首のDavid Cameronがウェブログを設置し、保守党の裏話や地道な活動を自ら報告している。保守党は、労働党政策への批判が高まる中で、若い党首をたて、イメージを刷新しようと必至である。

与党政権の労働党は2007年初頭に、YouTube上でLabour Visionというチャンネルを設置した。「メディアを介した情報伝達ではなく、直接、生活者に語りかけることで政策を理解してもらい、双方向コミュニケーションでより良い社会を築き上げていく」のが目的である。しかしながら、アクセス数は通常の人気のあるYouTubeの投稿と比較すると非常に低く、ニューメディアをうまく使いこなせていないとの批判もある。

他にも自由民主党もYouTubeでメッセージを流している。現時点では、これらの政党はいまだ、うまくニューメディアを理解し活用しきれていないが、いずれも、これらのネットワーキングサイトやインターネットの活用は、政治に欠認識を持っている。



労働党のYouTube上のチャンネル「LabourVision」
<http://www.youtube.com/labourvision>



保守党党首David Cameronのウェブログ
<http://www.webcameron.org.uk/>